

# 自主路線の堅持は人類の生命線である

アフリカ・チュチェ思想研究委員会理事  
ウガンダ・チュチェ思想研究全国委員会委員長  
ローレンス・マヤンバラ

いま、世界が多くの深刻な危機と挑戦に直面しているが、根本的な危険は国際平和と安定の基礎を破壊している帝国主義者とその追随勢力の強権と専横によってかもし出されています。

こうした環境の中で今回のチュチェ思想に関するインターネット国際セミナーが開かれていることについて特別に注目する必要があると思います。

チュチェ思想が、すべての民族は政治と経済、対外政策など、すべての分野で自主の路線を確固と堅持すべきであると明らかにした思想であることについては周知の事実であります。

ある民族が自主の路線を堅持できなくなれば、その民族は帝国主義と支配主義の支配と従属から脱することができません。

あらゆる形態の支配と従属を知らずに生き発展しようとするのは社会的存在である人間の本質的特性であり、人々の念願であります。

したがって、人間があらゆる支配と従属から脱して生き発展するか否かは、全的に自主の路線を確固と堅持するか否かに決定的にかかっています。

特に今日の国際情勢下で帝国主義と支配主義があらゆる手段を尽くして他国を支配し、甚だしくは自分らの「同盟国」をも例外としない事実は、自主の路線を確固と堅持することを死活の要求として提起しています。このようなことはそれほど驚くべきことではありません。

帝国主義者の方的で不公正な組分け式対外政策によって国際関係の構図が「新冷戦」構図に変わりながら一層複雑多難になったのが、現国際情勢変化の主な特徴であるといえます。

多くの国がいつにもまして帝国主義者と支配主義者のあらゆる独断と専横に対処して自主の路線を確固と堅持していくことを求めています。

チュチェの国、朝鮮民主主義人民共和国は金日成主席が朝鮮革命を切り開いた時から自主の路線を確固と堅持してきたということを特別に強調したいのです。

朝鮮民主主義人民共和国が自主の路線を堅持しなかったならば、帝国主義と支配主義の独断と専横が乱舞する今の世界情勢のもとで、今日のような強国になれなかつたでしょう。

1948年9月9日、金日成主席が創建した朝鮮民主主義人民共和国は去る70余年間、国家建設と活動で自主の路線を確固と堅持して大きな成果を収めました。

朝鮮民主主義人民共和国の自主路線によって朝鮮人民は自己の尊厳と運命を守って国の戦略的地位を急上昇させ、国の影響力を高めることができました。

かつて、朝鮮が大国の角逐戦の場になっていたことにより、朝鮮人民はあらゆる蔑視と試練を甘受しなければなりませんでした。

そういうことにより、朝鮮人民は何人も手出しできず、無視できない強国で暮らそうとする世紀的な宿望をもつようになりました。

朝鮮民主主義人民共和国にたいする長期間の核脅威を終わらせようとする朝鮮労働党の戦略的意志と今後も永遠に自強自力で進もうとする朝鮮労働党の鉄の信念によって、朝鮮民主主義人民共和国は自己の自主権と生存権、発展権を確固と守り得る強力な物理的力をもつようになりました。

朝鮮民主主義人民共和国の自主路線は、国の潜在力を非常に強化して、国を発展させ、その威力で全盛期を開くようにしました。

実に、現実はチュチェ思想が示した自主路線を確固と堅持するときにのみ、人民の真の生があり、それは人類の生命線であることを示しています。

わたしはこの機会に、チュチェ思想を創始し、また朝鮮労働党を創建してチュチェ思想を朝鮮民主主義人民共和国の現実に確実に具現するようにした金日成主席に敬意を表します。

わたしは、朝鮮民主主義人民共和国人民が金正恩総書記の賢明な指導のもとに朝鮮労働党第8回大会が示した目標を成功裏に達成するものと確信します。

太陽節を慶祝するこの場でウガンダ大統領がすでに市民たちの社会的福祉の増大に目標を置いた地域社会主義の計画を急速に推進していることについて言及する次第です。この計画には財貨創造の計画も含まれます。この計画は農民たちの富の蓄積を支援するための一つの方途として、よい種子と家畜、食糧を提供し生産物の販売市場を保証してくれます。他の計画で政府は全住民が地域の貯金所とクレジット組合(町内銀行)を開いて運営するように奨励しています。政府は人々が、貯金所と組合に金を貸し付けて大工と機械学、建設、美容業に従事する人々を援助することにより、自分の企業を運営しうる能力をもつようになります。

われわれは近いうちに、この方法がウガンダ人民の社会的・経済的地位で大きな変化をもたらすことを望んでいます。

またわたしは、ウガンダ人民が、愛国主義と自力更生を主な宣言として掲げていく民族抗争運動の政策にしたがって進むとき、彼らの未来はより大きな幸福で満たされ、国は比類なく強大になるであろうと確信します。